

平成 18 年度第 1 回釜石市社会教育委員会議開催結果

1. 開催日時

平成 18 年 5 月 26 日（金）午後 1 時 30 分～3 時 45 分

2. 場 所

教育センター 5 階 岩手大学釜石教室

3. 出席委員 11 名

柏崎龍太郎議長、柴田渥副議長、嵯峨左千夫委員、柝澤育子委員、菅原章委員、工藤保治委員、京極絵里委員、藤原昌教委員、神林峰子委員、澤田恭子委員、鈴木洋一委員

4. 欠席委員 4 名

山田市雄委員、佐々木暁美委員、小野寺有一委員、須藤公文委員

5. 事務局出席者 15 名

河東教育長、岩鼻次長、佐藤生涯学習スポーツ課長、中村図書館長、猪又市民文化会館長、矢畑釜石公民館長、木村甲子公民館長、八幡鶴住居公民館長、小笠原栗橋公民館長、大久保唐丹公民館長、前川生スポ課長補佐兼文化係長、小池生涯学習係長、小田島主任、山崎主事

6. 経 過

(1) 開会のことば

佐藤生涯学習スポーツ課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言。

(2) 教育長挨拶

内容は省略

(3) 新任委員、職員紹介

(4) 社会教育委員会議議長挨拶

柏崎議長からあいさつ。内容は別紙

(5) 協 議

生涯学習スポーツ課（公民館・郷土資料館事業含む）、市立図書館、市民文化会館の平成 18 年度生涯学習行政方針と計画について、生涯学習係・公民館事業は小池生涯学習係長、文化係関係事業・郷土資料館関係事業は前川補佐、図書館事業は中村館長、市民文化会館事業は猪又館長がそれぞれの資料に基づき説明し、その後質疑応答、意見交換を行った。

（詳細は別紙のとおり）

(6) その他

特になし

(6) 閉会のことば

佐藤生涯学習スポーツ課長が閉会を宣言。

柏崎議長あいさつ

最近子どもの生命が軽んじられているニュースが相次いでいる。変化の激しい時代ではあるが、このような問題は子どもの問題ではなく、大人側の問題で大人のしっかりとした意識改革が必要に思える。「温故知新」という言葉があるが、意識が変わることから時代の変革をしていかなければならない。

教育長のあいさつにもあったが、昨年度は様々な計画の立案がなされたが、平成 18 年度はそれを成果に結びつけなければならない。どのような制度や仕組みをつくったとしても、それを動かすのは人である。人づくりが大きな課題であり、そのことを念頭においた事業の運営・施策の展開をしていただきたい。

資料はいつもどおり事前に配布されているので、委員からの熱心な審議を期待するほか、教育委員会にも提言をしていきたいと思う。

各担当から資料に基づき一通り方針と計画について説明

質 疑

藤原委員 : 唐丹公民館の館長が来ている。生活応援センターが注目されていることなので、館長から報告を頂きたい。

大久保館長 : 《別紙資料を提示し業務内容を説明》

生活応援センターについては、12月議会に設置条例を提案する予定である。

藤原委員 : 上手く機能しているか感想も頂きたい。

大久保館長 : 唐丹地区ではこれまでも様々な事業が行われてきている。また今年は唐丹まつりもあり、住民の方々の方が忙しかったこともあり、事業への協力や協議などはこれからという状況にある。感想としては、60代～70代女性の方々を中心に、自主・ボランティア活動が盛んで健康で元気な人が多い。それから唐丹まつりには若い人がわざわざ帰ってくる。地域に文化を伝承する力あると感じた。

訪問活動で気づいたことは、高齢者の一人暮らしが多いということ。

藤原委員 : 当初の予定どおり行っているということか。**ぜひ良いモデルケースをつくり、他の地区へ提案できるようにしていただきたい。**

大久保館長 : 生涯学習が健康づくりも行っているということも感じた。長野県では生涯学習を盛んにすることが健康につながるということで生涯学習に力を入れている。

柏崎議長 : アンケートを実施したら72%の回収率と大変高い。各地区も協力できるよう認識を深めたい。

柴田副議長 : 大石交流センターが徐々に使われはじめているという説明があった。その中でマリンスポーツの団体という話があったが、具体的にはどのようなものか。指導者は誰か。

小池係長 : 主にシーカヤックをするグループの利用となる。昨年度、大石自然体験塾の際に講師を依頼したところ、今年度から独自にセンターを利用し自分たちの活動・他地区の仲間との交流に使っているようだ。また、釜石小学校でもキャンプなどの予定がなされている。今後他の学校にも広がるようPRを行っていきたい。

柏崎議長 : **子どもの居場所事業が本年度で委託金が廃止される**とのことで残念である。成果が大きいに市としては拡大して欲しいという思いもある。予算化の見通しを聞かせて欲しい。

小池係長 : 当初から3年間でボランティア化に移行するなどの方向を示されていた。しかし、現実には、子どもの安全を確保するためには責任が伴うもので、ボランティアだから責任がな

いというのでは困ることから、保険料負担などが必要となるし、消耗品も必要だ。次年度以降については、新たな制度が創設されるという話も出ている。内容は、放課後に地域の人が学校で勉強を教えるという事業となる。しかし、浜町地区でせっかく浸透してきた事業なので、予算獲得を含め継続できるよう検討していきたい。

柴田副議長： 関連して、場所を提供している釜石公民館長にも状況をお聞かせ願いたい。

矢畑館長： 開設当初は青葉ビルから浜町に移転したばかりで、利用者が少なかった。自動ドアが直ってからは人が集まるようになり、今ではあふれる位の子どもたちが来館している日もある。安心して遊べる場所があることは大事だと思う。

嵯峨委員： 双葉小学校では、子どもの居場所、総合型スポーツクラブを3年計画で考えている。世代間交流も9地区で行った。当初2年目で全体のスポーツ・文化の交流、3年目で組織づくりということだったが、予定どおりには行っていない。とにかく「人とのかかわり」を子どもたちにどう身につけさせられるかが重要な課題であると思う。

柏崎議長： 先日面白い協議会が発足した。「早寝・早起き・朝ごはん」協議会というもので早速福岡県で活動を展開している。もともとは教育振興運動との関係もあるようだが、市P連にも働きかけはあったのか。

菅原委員： 初耳です。最近では共働きの率が高くなっているのが難しい面もある。居場所の話になるが、学童クラブが無い地区に居場所があるので利用率が高くなっているという側面もある。釜石の状況として就学前の待機率が高くなっている。平田にそれを解消する保育施設ができるときいているので期待したい。

あと、子どもたちがスポ少に入らず、活動ができないという状況になっている。ニートの6割がクラブ活動の経験が無いという記事もあった。社会性を身につけさせるためにもスポ少への参加を呼びかけていきたい。

河東教育長： 「早寝・早起き・朝ごはん」に関連して、盛岡四校では生活習慣の手引きを作っていたり、県PTA研究大会でも食育（和食）がテーマとなっている。**生活リズムについては子どもの段階からしつける必要性がある。**話題になるのは良い傾向だ。

柏崎議長： 岩手大学の講座でも考えてもらいたい。

小池係長： 今回のまちづくり出前講座で、**学校給食センターが子どもの生活習慣病予防のためのメニューを出している。**岩手大学についても連携して考えていきたい。

鈴木委員： 小さい頃からの生活習慣は大事である。その割に乳幼児・家庭教育について、**生涯学習推進計画策定委員会の中で随分話し合った結果であるが、今回の資料の中には入っておらず、削られた**という感じがする。

小池係長： 今回の資料には生涯学習係と公民館事業を中心に掲載したもので、計画で網羅したことを何もしないという訳ではない。健康推進課、福祉事務所等の事業も数多くあり、それぞれに取り組んでいる。これまでどおりの資料となり、結果として削られたという印象を与えてしまった。**今後の資料作成の際には留意する。**

菅原委員： 青葉ビル1階に子育て支援センターをつくり、残りがコミュニティセンターとなると聞いているが。

柏崎議長： 大体そのように聞いている。

鈴木委員： **生涯学習推進本部は横のつながり等効率的な連携をもっと図るべき。**

菅原委員： （行政）サービスを受ける人は、担当がどこでなど考えない。

柏崎議長： 今後ともネットワークや連携を重視した施策を展開していくべきだ。

佐藤課長： そういう意味では生活応援センターでは事業の一本化する努力を行っている。

- 工藤委員 : 15 ページの芸文祭の展示部門で、ビデオ鑑賞とあるが映像製作の誤りである。
それと昨年度の「文化のまちづくり講演会」は良かった。一昨年はちぐはぐな内容だった。
- 柏崎議長 : **文化財の標柱や看板類も良くなってきたと思う。** 大体終了したのか。
- 前川補佐 : 大分できた。今後は傷のある部分を修理していきたい。
- 工藤委員 : 唐丹地区のアンケートの回収率 72% はすごいと感心したが、**ただ本当の意味の「協働」という言葉はどのようなことなのか。**
- 藤原委員 : この前来た田中先生的話では「異質のものが集まって助け合いながら一つのものを成し遂げる」という意味だそうだ。
- 柏崎議長 : 最近行政を中心に盛んに使い始めている。これについては、行政が意図的に使っているのであるから、もう少し P R をしたほうが良いのではないかと。私は新語ではなく、元々あった概念が表面化したものと理解している。**行政 + 民間、行政 + ボランティアなど、互いに壁を作らないで一体でやっていくもので、都合よく使い始めてはいるが、「公」を大切にする心に通じる。** 教育委員会でも判り易く説明する機会を提供したほうが良いのでは。
- 小池係長 : この点につきましても、本年度の出前講座のメニューに載せている。P R については、**総合政策課において、市としての協働に関する指針をつくる予定**となっている。
- 神林委員 : 生活応援センターの**モデル事業**について、**資料をみてもあまり子どもの姿が見えてこない。** 子どもとの関わりをどのように持っていくか。私たちが生活応援センターをどのように利用したら良いか示して欲しい。出前講座を子どもたちにも P R して欲しい。
- 大久保館長 : 公民館事業として「ひまわり教室」、「わんぱく広場」などを行っている。**今後、自主活動をたくさん作っていききたい。また、地域で行うワークショップに中高生を入れたいと考えている。**
- 河東教育長 : 唐丹地区の場合、日中は高齢者や一人暮らしが多い。**災害発生の際に一番頼りになるのは中学生だと思っている。そのような教育が必要だ。中学生に自信を持たせ戦力としてパワーを引き出すことが大切だ。**
- 京極委員 : 私ではないが、父(故人)が図書館を随分使っていた。新しいカード・システムになり、遠くの本が借りられると興味を持っていた。これから私も利用していきたい。
成人教育として私は市教委から依頼され、外国人のための日本語会話教室、市民対象の英会話教室(夜)を行っている。特に**英会話教室はリピーターばかりになってきている。ホテル、看護施設、観光地の方にも積極的に P R を行って欲しい。** また、数年後に小学校に英語が教科として入ることが予定されている。私も A L T (英語指導助手/外国人)の関係で小学校に出向くことがあるが、その際、先生方からは「何もわからないのでお願いします」という返答を得ることが多い。**特に小学校の先生に教育委員会の方から打診なり P R が必要**ではないか。釜石にいる外国人は、「釜石の顔になる人たちが英語を話せず、飲み屋で会うような人たちが受講に来ている」と不思議に思っている。
A L T だけでなく、市内の企業にもたくさん外国人が入っている。個人的に助けたいが、もっともっと外国人を助ける・日本語を教える人が必要だ。また、中には移住をしたいと思っている人もいる。
- 小池係長 : **ダイレクトメールは既に実施しているが反応がないのが現状だ。どんなに P R や働きかけを行ったとしても最終的には個人の意欲の問題**になってしまう。
- 柏崎議長 : 最近市立図書館が意欲的に独自の事業を展開している。館長からその辺の話を伺いたい。
- 中村館長 : 英語辞書を読む、最近学校ではできるだけ辞書を引かないようにしているとのことで、

高校生に参加してもらいたかったが目論見がはずれ一般成人が多かった。パート として **英字新聞を読む会を開催**しており、そこには小学校の先生が来ている。これらの事業参加者には全てカードをつくってもらっており、図書館利用促進の一環としても行っている。図書館の2階は内容によるが団体等に貸出しもできる。

柏崎議長 : 栃澤委員、市立図書館では学校図書館との連携を強める方向とのことだが、学校としてはどのような方向を考えているか。

栃澤委員 : まず釜石は文化活動が盛んでレベルも高い。大変良い環境であることを生徒たちにも話している。ご存知のとおり中学校は土日となると部活、大会と大変忙しい状況となっている。現実として土曜日には活動はできないと思って間違いない。ただ**第2・第4日曜日は部活休養日としているので、その時に設定してもらえれば何とか中学生の活用が図れるのではないか。**

図書館との連携という点では、今年と来年、**甲子小・中学校・南高校で生きる力を育む読書活動推進事業が始まる。それを契機に図書館との連携も図れると思う。**

中村館長 : 今先生がおっしゃった事業については、図書館も積極的に関与していくこととしている。巡回図書館では甲子小学校に行くと50人ほどがすぐ集まり列ができるほどだが、甲子小学校の読書ボランティアの協力を得て整然と行われる。職業体験のような形で図書館に訪れる中学生を可能な限り中高生のボランティアに育成したいと思う。

澤田委員 : こちらで提案した内容、移動図書館が釜石小学校の校庭に入ること、芸術鑑賞会の空きスペースで保護者の鑑賞も許可していただくなど配慮をいただいた。

その他のお願いになるが、特に**中学生について子どもを地域活動に返す時間が欲しい。**例えば雪かきを率先して地域でさせるとか。そのような環境づくりを学校にお願いしたい。

柏崎議長 : 地域の行事に小中学生が参加できるよう考えるべき課題である。

文化会館に関して、芸術文化協会以外の団体でも会館職員がサポートを行うのか。

猪又館長 : サポートする。またサポートということでは、6月15日号の広報で会館の**サポートスタッフを募集する予定だ。研修会も行っていきたい。**

【主な質疑・対応方針等】

意見)生活応援センターについては、先行する唐丹地区で良いモデルをつくり、他の地区に提案できる内容とすること。

意見)子どもの居場所については、成果が上がっている事業なので、委託金廃止後も継続の道を検討すること。

意見)「早寝・早起き・朝ごはん」など、子どもの生活リズムに関する話題が出てきている。食育に関する取り組みが必要

質問)生涯学習推進計画で策定された内容が本年度の計画に反映されていない。削られた感を受けるが。

今回は生涯学習係・公民館が主担当となる事業を掲載している。今後は、推進計画の内容にも留意した資料づくりとする。

質問)協働という言葉が多く使われているが、本当の意味は何か。特に使用している行政は判り易く説明する必要がある。

本年度、協働に関する指針づくりを行い、ケースごとの説明がなされる予定だ。

質問)生活応援センターの事業説明の中では子どもの姿が見えてこないが。

個別事業では「ひまわり教室」「体験サークル」などがある。今後は、中高生などが活動できる自主グループ、ワークショップに活用したい。

質問) 英会話教室の生徒がリピーターばかりになっている。ホテル等の施設にも周知が必要では。

すでに周知は行っているが、反応が無い状況。今後ともPRはしていくが、最終的には個人の意欲の問題になってしまう。

意見) 中学生を地域に返す時間が必要。